

土管に落ちたニホンイシガメ

小賀野大一

290-0151 千葉県市原市瀬又962-40 千葉県野生生物研究会

Record of the Japanese pond turtle, *Mauremys japonica*, in clay pipe.

By Daiichi Ogano

Chiba Prefectural Wildlife Research Society, 962-40, Semata, Ichihara, Chiba 290-0151, Japan.

ニホンイシガメ(以下イシガメ)は池や河川, その周辺にある水田や湿地, 草地や森などの陸地に生息する。本報告では生息地内を徘徊する際に土管に落ちてしまったイシガメを2例報告する。

1. 房総丘陵の小河川に放棄されていた土管に落ちたイシガメ(図1)

2014年12月28日に太平洋に注ぐ小河川において, おそらく増水時に上流から運ばれてきたと察する土管内にイシガメ1頭を確認した。土管内には瓦礫などが見られたが, それを利用しての脱出は困難に思えた。

イシガメは背甲長166.91mm, 体重686gで推定年齢10歳の雌の個体で, 特に弱っている様子は見られなかった。越冬期に当たるため, 冬季の間は土管内での生息も可能と思われるが, 活動期に脱出ができなければ衰弱し命を落とす可能性も考えられた。



図1. 土管に落ちたイシガメ(房総丘陵において)。

A: 河川の様子と流されてきたと予想される土管(矢印)を示した。奥が上流側で手前が下流側になる。B: 土管内の様子とイシガメ(土管中央の矢印)。C: 図Bで示したイシガメの拡大図で, 冬期にかかわらず土管内で動きが見られた。

2. 北総台地の休耕地にあった土管に落ちたイシガメ(図2)

2016年4月23日に初めて訪れた谷津田脇の休耕地において、放置された土管内にイシガメ1頭を確認した。背甲長120.81mm, 体重228g, 年齢が10歳を越える雄の個体で、長らく土管内にいたためか背甲全体に藻類が付着していた。この土管内にはニホンアカガエルも複数落下しており、すでに息絶えた個体もみられた。土管の内径は90cm, 上端から水面までの距離は45cm, 水深は32cmでイシガメやアカガエルの脱出はまず不可能であった。土管は周囲の休耕地がかつて畑だった時に水の確保が目的で設置されたものと思われたが、そのまま放置されたために生じた災難といえるだろう。



図2. 土管に落ちたイシガメ(北総台地において).

A: 休耕地の隅に放置された土管. B: 土管内で複数確認されたニホンアカガエルの成体. C: 土管内で確認されたイシガメの雄で、甲羅全体に藻類が付着し黒ずんでいた.